たちばな

平成１８年７月１日発行　第５６号

たちばな

水谷山 寶清寺

お盆の話

七月十三日～十六日はお盆です。正式には「盂蘭盆会」といいます。古いインドの言葉「ウランバナ」を漢字にしたものです。「倒懸」と訳します。「さかさまにぶら下げられる苦しみ」と言う意味です。もし先祖が、そのような苦しみに遭っていたら誰もが救ってあげたいと思うはずです。お盆の目的は先祖の霊をなぐさめたいと願う心から生まれた先祖供養の行事と言えます。お釈迦様は目連さまが母を救うという話から、**「父母を救済するは大功徳あり。われ父母をたすくるによりて世々に難なく、自ら成仏をせり」**と説いているのです。現代人は先祖・父母の恩を忘れがちですが、今ある生命が大切です。父母への孝養・先祖の供養のため、先祖に対する最高の感謝の証しである塔婆を建ててご家族で墓参し自身を生かすよう心掛けましょう。

お施餓鬼法要は
七月十七日（月）
十一時より厳修
致します。

田蓮聖人遺訓 6

「漆至って黒ければ白くなる事なし、此よりうつりやすきは人の心なり、善悪にそめられ候」（西山殿御返事）

真黒な漆は白くしようとしても白くならないが、人間の心は何と動きやすい事か。現代人の心は、利害によって白くも黒くもなる。信念はどこへ行ったのか。

身延山五重塔再建 寄附中間報告

身延山五重塔再建のご寄付につきましては、六月末日現在、二三六名の方より四，三二二，〇〇〇円の貴重な浄財が寄せられました。

この浄財の内三百万円を内金として、矢崎槙次・青木正幸の両総代と住職の三名で四月五日、身延山にお届け致しました。残金については、今年の年末に届けたいと思っています。

つきましては、経済的に非常に厳しい世情のなかお寄せ頂いた皆様のお気持ちに答えるべく、第五十五号の「たちばな新聞」の号外として、身延山五重塔建立寄付者芳名一覧を作成させて頂きました。

尚、寄付の最終締め切りは、平成十八年十二月十日とさせて頂きます。これからでも間に合いますのでよろしくお願い致します。

平成二十年秋 竣工予定

住職ひと口法話 6

最近、親が子を子が親を殺したり、小学生が眼を付けたと恐喝したり、狂ったとしか思えない事件が多すぎる。どうしてそう言う世の中になってしまったのか大まかに分析すると、二十世紀前半は戦争の時代であり、後半は経済の時代と言えるでしょう。経済優先の現代は功利的にものを考える傾向が強いようです。その世相を画家のゴヤは一枚の銅板画で表現しています。金歯をはめた男が絞首刑になり首に縄が巻き付いたままぶら下がっています。その脇で女性が死体を見るのは気持ちが悪いので顔を背けています。しかし、高価な金歯は欲しいので取ろうと手を伸ばしています。この一枚の銅板画は疎外された現代人の姿を見事に表現していると言えます。加えて現代は情報が氾濫しています。そこで現代人は知識に頼り損得でものを考える傾向が強くなったのではないでしょうか。昔の日本人は知恵があった。昔、村に著しい被害を及ぼした村人を絶縁して孤立させるという「村八部」の風習があった。世界の人間関係の風習の中で、最悪のものと言われていますが、実はそうではなく「村八部」の文字の示すとおり、その断絶は「八部」であって、「十部」（出産・成人・結婚・葬式・法事・病気・火事・水害・旅立ち・普請）のうち、八部は断絶するが、二部の交際は残すという意味です。その二部は「葬式」と「火事」です。「村八部」を村落共同体の最大の懲罰とした日本人の人間関係の発送の根底には、結局「人間は助け合っていかないと生きていけない」と言う社会共同意識があった。我々は「知識」と「損得」で考えず、「知恵」をもって住みよい人間関係を作りたいものです。

新スタッフ紹介

四月より、法務関係で、立正大学大学院研究室在籍の**内田本嶽**と寺務関係で**坂井美千代**が皆様のお世話をさせて頂くことになりました。

当山の山務員は法務一名・寺務男性三名・女性四名となりました。

管理料について 徹底方のお願い

1、自動振替の手続きをされた方

平成十八年度分についての自動振替の事務処理は全て終了致しました。尚、十九年度につきましては、平成十九年三月二十五日に振り替えさせて頂きます。平成十八年度も残高不足で自動振替が出来なかった方が、十数件ありました。平成十九年度の振替については、近くなりましたら予告させて頂きますが、残高をご確認くださいますようお願い致します。

2、多摩信用金庫への振り込みにより納入を希望される方

①多摩中央信用金庫」の名称が、「多摩信用金庫」と変更されましたのでお間違えのないようお願い致します。

②銀行に備え付けてある用紙をご利用になり、次の口座にお振り込み下さい。

振込先　多摩信用金庫　秋川支店
普通預金　一五一六二四九
名義　宗教法人　宝清寺
代表役員　石井　前琮

3、持参して納められる方

墓参のおり、持参して納められることをご希望の方は管理寺務所に直接ご持参下さい。

尚、①管理料は前納になっています。

②会計年度は四月から翌年三月になっています。

③平成十九年度から自動払込を希望される方は、管理寺務所に管理料の郵便局自動払込申込書をお電話でご請求下さい。

発行 寶清寺 東京都あきる野市小川101番地　電話 042-558-2663　FAX 042-558-2693　たちばな会館　電話042-550-5868

身延山五重塔建立寄付者御名

（五〇音順　敬称略）

片石石池新　藤　矢野我増沼沼中利田島栗私神片　島　森沼　小青　田　原金
淵塚井田井　井　崎嶋妻田　原根中田原市田岡　田　川　林木　中　子
　　富　利　山　　な
憲政清初　愛　槙　美幸兵利　玲勝忠三　清　英忠　正　良　津治
学昭道治江　子　次紘子雄衛久満子代司省顕保一　肇　喜三　正幸　明　子男

林蜂中築田竹高妹清小北神川川薄上飯阿安　吉湯山町中杉椎佐齋小小小木神金加
部谷野地村田木尾水林村田田崎　野田部部　野浅田田村山野藤藤牧林林下田光藤
　　三美　　　　　　　　　　　　　　　　ミ
幸　允宏　昭正依　四知元　勝義明泰ツ和　辰利俊信　ヨ芳勝芳高初恒幸ヨ俊義
男弘順夫清生弘子緑子子和栄寛明夫之ヤ夫　也子一子赳ウ挙利徳男郎之子子夫夫

久桐木喜岸河門門加加織押尾荻小岡岡岡大大井井石石石浅　田　川川川川　坂　横山前原原
慈原村多田澄目倉藤藤部久崎島川本村部村村上上原井井見　村　崎崎崎崎　井　川崎田
　　八　美保　　清
志清和達壽泰忠定重正代　亘清　量洋二眞昌浩　藤武ヤ　泰　規　栄　テ俊義克
朗成夫男夫代和一子人子進弘吉登利明郎人文史潔昇子次ス　雄　悟尊子宏　吉　努イ介一彦

沼西仁鍋長長長飛戸手土千玉谷田竹高高園鈴鈴鈴杉下志志澤佐笹佐佐小小小小五小後小椚久
　山科田野島澤沢田塚屋葉山口中下野木部木木木田山賀賀井藤本伯伯山山宮峯味沼藤島　保
確喜　　み　甲　善ミ美　　　　富美　　山　　田
太久秀修洋　ど信秀紳子守春次ヤ恵重　利寿達　豊照秀直美津真尚慶歳一　敏俊和青秀頼忠
郎雄夫一子勝り義雄子男義雄郎子子成清男子夫剛和子臣巳子子一彦子秋吉進生子人八久正次

渡米吉吉横湯山山山山山矢舘森望望村見三宮宮宮宮水丸松松古古深深平原原林林林花波望根
辺山野澤内浅田田口口石崎　田月月中廣好松永永川葉山岡岡山屋野澤田　田　　房多月本
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　野
喜　富ひ　見　　美　ツ　美
三清　美さ雄よ淑津栄龍竹忠中義良誠　正敏由光晴雅ヤり光忠寿喜津龍芳和永　冨　四哲
郎人勝男し相し江穂子蔵市義衛雄章吉勝男子紀義夫雄子こ三良美治留夫子子彦喬豊雄整郎治

和吉山山森森間松本舟布平林濱橋中内土正柴塩木久菊菊小氏糸糸磯秋秋　佐　青　田　綿
田川田岡田田野崎合山施松　本澤藤屋田崎野幡住池池野家賀賀崎山松　野　木　村　貫
　　　田　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　
　　榮　スきよ　志　　キ　寺　マ
ツ佳周美秀ミ　弘喜　義一幸保和敏淑和晴数賢ノい　英　夏サ　正和貞　静　完
ギ男一子明エ　子子久智春隆子子代郎子子彦枝一イせ司子明美子誠樹雄子　子　吾　清　豊

ましいか頂月平終尚、
すくまらき十成締
。おすでま日十め
願のもすと八切寄
いで間。さ年り付
致よにこせ十はの
しろ合れて二、最

高川　本　渡松中中杉佐片大遠
橋俣　田　辺土川川田藤淵沢藤
　　香ナ
　　代ツ　恭幸久　晋長伸正謙
　　子ヨ　昇　崇雄義透二一江子司